

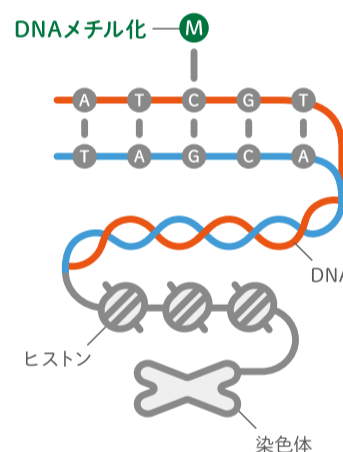
犬の多中心型リンパ腫 予後判定マーカー受託開始のお知らせ



北海道大学 × アニコム 共同開発 (協力: ノースラボ / 東京大学附属動物医療センター)

多中心型リンパ腫の予後の予測が可能に

DNAメチル化はDNAそのものへの修飾で、遺伝子の発現を制御します。細胞の様々な働きに関与するため、人医領域でも大腸がんにおけるスクリーニング検査などに使用され始めています。このたび、**犬の多中心型リンパ腫**におけるメチル化パターンの解析を行った結果、**腫瘍発生に関連する遺伝子群に異常メチル化が存在するか否かが症例によって異なっていることが判明しました。**これにより、CHOPプロトコルによる治療によって長期間の予後が望める症例の予測が可能となりましたことから(特許米国仮出願:63/287,534)、犬の多中心型リンパ腫予後判定マーカーの受託を開始いたしますのでご利用いただきたくご案内申し上げます。



本マーカーの特徴

- 臨床症状があっても(サブステージb)実は予後良好の症例がいます。
- 細胞診スライドなどで検査可能です。DNAの検査なので長期安定です。
- 治療戦略決定・飼い主さまへのインフォームドコンセントに有用です。

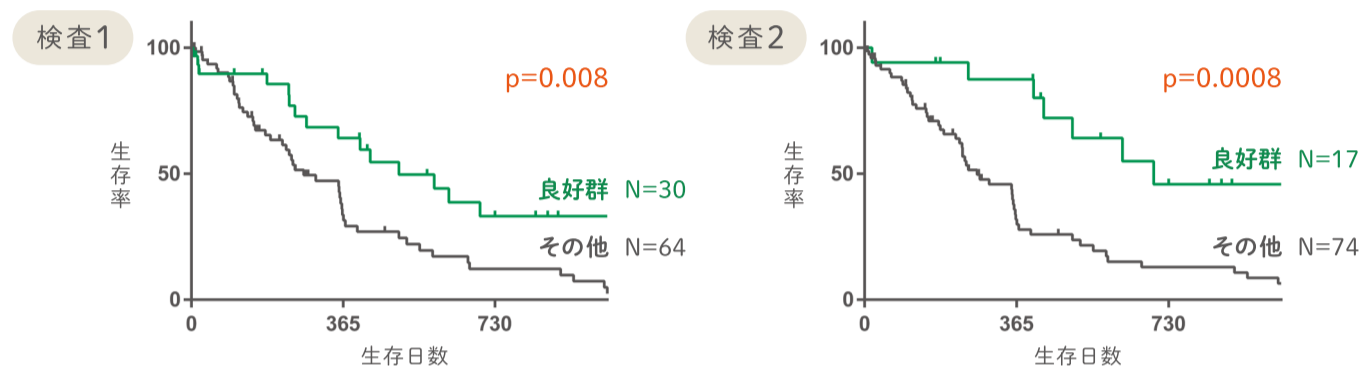
4/1
.....
受付開始!

治療を諦める前に、ぜひご検討ください!

先行データ

症例およびサンプル

2013-2018年に全国の開業動物病院からノースラボに細胞診検査依頼のあった、CHOPプロトコルによる治療を行った多中心型リンパ腫(中～大細胞性、High-Grade)を対象としました。細胞診診断に用いたスライドからDNAを抽出し、生存期間について予後判定を行いました(下記、検査1および2)。



判定結果(症例の割合)	検査1	検査2	1年生存率(%)	2年生存率(%)	備考
通常群 (約65%)	×	×	45%	20%	通常の多中心型リンパ腫の成績と同等
やや良好群 (約15%)	○	×	70%	35%	やや良好な予後が期待できる
良好群 (約20%)	○	○	80%	45%	大幅に良好な予後が期待できる

上記の他、ステージbのみの症例を対象とした場合、B細胞型のみを対象とした場合においても予後判定が可能であることが確かめられています。一方、B細胞型であることが確定していない場合ではその有効性が確認されていません。ご注意ください。

検査項目の必要条件

多中心型リンパ腫予後判定検査	
必要検体	細胞診用スライド
保存条件	室温
報告日数	検体到着後5～7日(土・日・祝日を除く)

ご依頼は、検査依頼書の「臨床経過・病歴・治療」欄もしくは「遺伝子検査」欄にご記入ください。
 病理検査・細胞診検査・遺伝子検査と組み合わせて予後判定が可能です。
 予後判定のみも受付しておりますが、**多中心型リンパ腫**であることが必須です。
 また、細胞診検査にて中～大細胞性、High-Gradeと診断されていること、B細胞型であることが推奨されます。

お問い合わせ先 (受付時間 / 平日 9:00 - 17:00)

■ 検体や料金に関して

ノースラボ
 〒003-0027 札幌市白石区本通2丁目北8-35
 tel. 011-827-7407 fax. 011-827-7406

■ 検査の内容に関して

北海道大学 One Health リサーチセンター
 〒060-0818 北海道札幌市北区北18条西9丁目
 ohrc@vetmed.hokudai.ac.jp (こちらから折り返しご連絡申し上げます)